

トーキョーNOVA The Detonation リブレイ

グッバイ、 ヒューマニズム

sample

製作 ニューロ/CD製作委員会

画 いわずみ

まえがき

初めまして。この本をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。

本書はテーブルトークRPG『トークイーン◎VA The Detonation』を取り扱った、同人リプレイ誌になります。

このゲームで扱う世界観である、「ニユーロイジ」は、繁栄と退廃を極めた暗黒の近未来を舞台としています。

ここでは、人間は誰もが体にコンピュータを埋め込み、体の一部（あるいは全部）を機械に置き換えて便利に暮らしています。世界中には無線による情報網が張り巡らされており、情報だけの存在であるところの人工知能たちが、自我を持ち、一つの生命体として存在し始めています。

技術の進歩により、人間と機械が非常に近く、その境界線が極めて曖昧になった世界観と言えます。『攻殻機動隊』や『マトリックス』、最近では『トロン・レガシー』などでお馴染みの、サイバーパンクと呼ばれるジャンルの世界観ですね。

本書『グッバイ、ヒューマニズム』で描くのは、サイバーパンクではお馴染みの「人間性とは何か」というテーマです。

機械と人間の区別がなくなったり、機械の力で人間の能力や感情が操作できるようになった世界で、人は自らの存在について悩みます。その根源的な問いかけは、使い古された今でもなお、多くの人を魅了してやみません。今回は、その王道をリプレイとして再現する事を目指してみました。

前置きが長くなりました。このリプレイが、少しでも貴方に楽しいひと時を提供できれば、これに勝る幸せはありません。

トークイーン◎VAのスタイル一覧

・	カブキ	芸術家、ギャンブラー。強運を味方につけた自由人。
1	バサラ	念動力者、退魔師。意志や知性を秘めた魔法使い。
2	タタラ	研究者、技術者、医者。技術と知識を探索するもの。
3	ミストレス	バーのママ、姐御肌の女性。信頼を受け、愛情を注ぐもの。
4	カプト	ボディガード、バウンサー。他者を護る現代の騎士。
5	カリスマ	政治家、教祖、弁護士。人を惹きつける指導力をもつもの。
6	マネキン	娼婦、遊び人。他者に依存して生きる弱さをもつもの。
7	カゼ	走り屋、運び屋、ソク。流れる風の中に生きるもの。
8	フェイト	探偵、正義の味方。欺瞞に満ちた街で、真実を探すもの。
9	クロマク	首領、フィクサー。裏の世界を生耳る支配者。
10	エグゼク	企業の重役、経営者。金とコネを使って利益をあげるもの。
11	カタナ	殺し屋、剣豪。接近戦のプロ。欲望と本能で生きるもの。
12	クダツ	企業工作員、さりまん。社に忠を尽くす現代のサムライ。
13	カゲ	暗殺者、スパイ、ニンジャ。闇に潜み、死をもたらすもの。
14	チャクラ	求道者、武術家。精神と肉体の両方を鍛えるもの。
15	レグラー	ヤクザ、マフィア、ちんぴら。悪と私欲の権化。
16	カプトワリ	スナイパー、射撃のプロ。一発の銃弾で時代を動かすもの。
17	ハイランダー	天上人、エリート。記憶を失った謎の人物、希望の象徴。
18	マヤカシ	幻術師、占い師、ESP。非現実的な世界を見つめるもの。
19	トーキー	報道者、記者、キャスター。世界を変革する力を持つもの。
20	イヌ	警察、裁判官、検事。法により人を裁く、審判の下し手。
21	ニユーロ	ハッカー、データ盗賊。情報世界に生きるもの。
-1	ヒルコ	ミュータント、人造生命。文明により生まれた異形。
-7	アラシ	重戦闘兵器の乗り手、壊し屋。世界を蹂躞する破壊者。
-9	カゲムシヤ	影武者。自分を喪失し、他人の姿を借りて影に生きるもの。
-18	アヤカシ	妖怪、鬼、伝説上の生き物。永劫を生きる夜の支配者。

用語解説

ニューロエイジ

「トーキョーN○VA The Detonation」の舞台となる時代、世界観のこと。『**災厄**』と呼ばれる世界規模の大災害の影響で、世界は氷河期に突入しており、人々は限られた巨大環境都市にのみ生活している。世界中が無線による高度な情報網に覆われた近未来世界。

トーキョーN○VA

このゲームの主な舞台となる都市。鎮国した超大国・日本が、干上がった東京湾跡に建造した出島であり、世界経済の中心として繁栄と退廃を極めている。

メガ・コーポ

世界有数の超巨大企業複合体。この世界では多くの国家が存在意義を失い、巨大企業がそれにとって代わっている。

電脳化

体内に、**「I・ANUS」**というインターフェイスを埋め込み、人体を直接機械と繋げる技術。ニューロエイジの人間は、ほとんどが電脳化している。

I・ANUS

Intelligent Assassin, Neural Utility Systemの略。全てのサイバーウェアを制御・管理する、人体のOSとも言うべきヒューマン・マシン・インターフェイス。

サイバーウェア

体の一部分に置き換えられた機械のこと。ニューロエイジで便利に生活する為には欠かせない物であり、生身の不可能を容易く可能にする。

全身義体

脳以外の全てを機械化したもの。軍用全身義体は最新鋭テクノロジの結晶であり、人間を遥かに凌駕した性能を発揮する。

ウェット

全く電脳化していない人のこと。電脳から切り離されている事は、社会から隔絶されている事と同義であり、不便極まりない。

トロン

コンピュータのこと。脳に直結させ、全感覚をウェブに投入させることが可能。

情報生命体(AI)

人が作り出した人工知能。あるウェブ上での大事件を切欠に、ニューロエイジでは次々とAIたちが自我を持った「生命体」として覚醒しつつある。

意識体

人間がもつ意識、自我、魂のこと。または、キャラクターの声やウェブアバターなどの「意識」のみがシーンに登場し、生身が登場していない状態。

市民ID

トーキョーN○VAの住民は、全てID管理されている。IDを持たない人間(「Xランク」)は、社会的に存在しないものとして扱われ、いかなる公共サービスや法による保護も受けられない。

スタイル

職業・立場・性格などを内包する、その人の「在り方」を意味する言葉。キャラクターを構成する最も重要なデータ。(前ページのスタイル解説を参照) 基本的に1人のキャラクターが3つ保有する。

「トーキョーN○VA」は、主人公たちが自分のスタイルを貫くゲームである。

ベルソナ(◎)とキー(●)

スタイルの中で、表面的なもの(職業や見た目)をベルソナといい、その人の根幹、本質的なものをキーという。どちらにも当てはまらないものはシャドウといふ。

神業(※文中、◇で囲まれたもの)

各スタイルに設定された、アクト中に1度しか使えない絶対的な力。キャラの超人的能力や幸運などを表現するものであり、物語の主役としての「見せ場」。

RL(ルーラー)

このゲームにおける進行役。他のゲームで言うところの、ゲームマスターのこと。

「それを失った者は……揺らがないんじゃない。揺らげないんだ。

迷うことすらできない。だから正しさも見つけられない。

過ちだけを抱え続けて、いつまでもくず鉄として生き続けなければならない」

—— “くず鉄” ミゲル

ロストヒューマンに花束を

Flower for lost-human



顔も体も人格も、キャッシュで交換お望みのまま。

2秒でコンプレックスとさようなら。

電脳世紀の叡智の結晶、サイバーウェア。

ただの人が、次々とサイバーサイコになる……

義体の恩恵に慣れ過ぎた人間達は、その事件に恐怖した。

それは、夢の技術がもたらす弊害か。

それとも、人間の脆弱さがもたらす必然か。

これは、ジブンを無くした人間達の、滑稽な悲劇の物語。

トニー・N・VA The Detonation

『ロストヒューマンに花束を』

プロアクト

ルーラー（以下RL）：かくて、運命の扉は開かれた。

それではこれより、『トニー・N・VA The Detonation』のアクトを開始します。

タイトルは『ロストヒューマンに花束を』。義体化によって

自分を見失った、サイバーサイコ（*）の物語です。今回のアクトは、事前に打ち合わせをネット上の掲示板にて

行っており、配役やキャストの準備を済ませた状態で集まっております。

尚、今回のアクトでは「人間性」というものをテーマに描きたかったため、ルーラーからキャストに対して一つのお願いをしています。それは、自分の生き様に対して、なにか疑問や悩み、揺らぎなどを1つ持たせて欲しいというものです。

では、プロアクトを始めましょう。

くず鉄 ミゲル

殺人マシン、軍人くずれ、戦争の生んだくず鉄——呼び名なら好きにすればいい。名前が必要なら、ただミゲルと呼んでくれ。

俺は兵士だった。独立軍の一員として、あのミトラス戦争に従軍した。地獄のような戦場を生き抜いてこれたのは、暖かな故郷の記憶があったからだ。

だが戦争から帰った俺を待っていたのは、冷やかな視線だけだった。人殺しの装備と経験とを大量に積み込んだ荒くれ者は、善良な市民様の社会では邪魔者だったのさ。しかも、度重なる機械化のせいで俺の神経はポロポロで、これ以上は除去手術にさえ耐えられなかった。

故郷も、平和も、幻だった。俺の居場所は、もうとつくに戦場しかなくなっていた。

そして俺は……私は、企業の工作員となりました。命令通り

に暴力を振るうことで、生活の保障を受ける人生。それが流れ歩いた末に辿り着いた、相応の居場所。

私の名はミゲル。ニューロエイジ最大のメガコーポに忠誠を誓う——ひとりの、善良な市民です。

RL..では、順にキャスト紹介をお願いします。まずはクグツから。

PL①（以下ミゲル）..はい。名前はミゲル。千早重工（*）後方処理課（*）に所属する企業作業員です。スタイルはクグツ◎、カゲ、カプトワリ●。45歳の男。全身の92%が機械化されている、戦闘用のサイボーグです。外見は、クグツのタロットのキャラクターをイメージしています。

PL③..（プロファイルシートを眺めながら）随分変わった装備ね。どれもこれも、古い装備ばかり。（*）後方処理課って、千早重工の中でも先鋭の部隊でしょ？ もっと良い装備を使えるんじゃないの？

ミゲル..それには理由があります。私は元々、ミトラス戦争（*）に従軍した軍人でした。戦場は衛生環境も悪いし、薬も足りない。そんな中で怪我をしたり、体の部品が壊れたりすると、ある物を適当に組み合わせて、粗雑な設備でサイバー化をしなければなりません。そんな生活を10年以上もしてきた結果、神経がボロボロになってしまった。それ以上のサイバーウェアの導入やアップグレードも出来ない。型落ちの部品ばかりをつけている為、くず鉄^{ジャンク}というハンドルで呼ばれています。

PL②..随分と過酷な環境で生きてきたんだな。徴兵されたのか？ それとも志願？

ミゲル..志願。当時は国家とイデオロギーに忠誠と情熱を捧げた若き兵士でした。だが、戦場で人間性のほとんどもをすり減らし、敗戦後、帰還した故郷ではならず者として排斥された。もはや平和な場所に自らの居場所はないと悟った時、私に手を差し伸べたのが、戦時中の敵であった日系企業だったというのは、皮肉としか言いようがありません。

RL..今回、ミゲルはRLからキャストを指名させて貰いました。（*）戦争により人間性をすり減らした機械化兵が、このシナリオにはピッタリだと思いましたので。

ミゲル..もはや戦場でしか生きられない私は、戦場を与えてくれる限り、千早重工に忠誠を捧げ続けるでしょう。しかし今も、失った平穏への憧憬が燦^{きら}々続けている、そんなキャストです。

サイバーサイコ..サイバー化が原因で精神的なダメージを受け、正気を失ってしまったものの事を言う。

千早重工..世界を支配するメガ・コーポの中でも、最大規模を誇る千早グループの基幹企業。I・A・N・U・Sの製造元でもある。

後方処理課..企業間抗争において、非合法的な工作活動を行う千早の部署。その様相は軍隊さながらである。

古い装備ばかり..ミゲルが人体に直接埋め込んでいる装備は、使用可能時期が全て「2016」のものである。（詳しくは「プリメント・アフロニクル」を参照）

ミトラス戦争..かつて、新大陸ミトラスで勃発した独立戦争。独立軍と日系企業軍との泥沼の戦争は、実に10年以上にわたった。

キャストを指名..RLはこのアクト以前に何度か、ミゲルというキャストとアクトを共にしていた。その経験から、彼が今回のシナリオのテーマにぴったりと判断し、担当プレイヤーにミゲルを使つての参加をお願いしたので。

RL…では、ミゲルのハンドアウト（*）は以下になります。

「クツ」コネ・芽華／推奨スト…感情

君は以前、一人の後輩を指導していた。彼女の名前は芽華。君と同じ、後方処理課の職員だ。優秀だった彼女はしかし、義体化による自己認識障害（*）を患い、壊れた。

程なくして社を追われた彼女だが、最近になって、テラウエアのある策謀に加担しているらしい。壊れた彼女が社の敵となるならば、君は彼女を始末しなければならない。

PS（*）…芽華を始末する

RL…芽華は、元・後方処理課の若き職員です。貴方がかつて指導していたという設定になります。『ゲームーズ・ワールド 12th season vol.1』（*）に掲載されたシーストストーリーに登場したキャラクターですね。

ミゲル…育てた後輩を、自らの手で始末しなければならない…非常に重い任務ですね。

至誠官^{しせいかん} キョウ

誰かに似てる、って？ いいよ、思い出さなくて。

僕はキョウ。ブラックハウンドの警部補だ。所属は隊長付特別室ってトコ。名前は立派だが、仕事は書類の整理。要は飼

殺し。真面目に仕事をしてただけなんだが、上の意向でね。だが、こんな所で大人しくしていられる性分じゃない。それに税金で食わせてもらってる身だ、事件があれば飛んでくさ。

ん？ ああ、確かに他の誰かなら監視システムに引っかかるだろうが、僕はウェットなんだ。親父が汚職警官でさ。税金払ってる市民に申し訳なくて、僕は無駄な金を使いたくなかっただけだが……こんな時は役に立つ。

市民のために、って警官がひとりくらいいてもいいだろ。おかげで隊長には睨まれてるし、至誠官、なんて有難くないんだ名も貰っちゃまってるけどな。いや、褒め言葉は褒め言葉なんだろうが、響きがなあ。シセイカン、だぜ？

誰に似てるかわかった、って？ ……すまん、事件みたいだ。それじゃ、これで失礼！

PL②（以下キョウ）…次は僕だな。特務警察ブラックハウンドの隊長室付特別室に所属する、キョウ警部補（*）です。

22歳男性。スタイルはカブト、フェイト●、イヌ○。多少先走る癖はあるものの、勤務態度も良く真面目で、正義感に燃える、正統派な警官です。

ミゲル…隊長付特別室……？ イヌ枠は、機動捜査課（*）の指定ではありませんでしたか？

RL…そこに関しては、プレイヤーからやりたい造形があるという事で相談を受けています。

キョウ…元々は機動捜査課にいたんだ。だが、隊長の命により

部署移動になってしまった。隊長付特別室なんて言えば聞こえは良いが、その実際は厄介者をおしこむ閑職だ。警部補の階級と書類整理なんていう重要な役割とやらを与えられ、日々焼っている。

PL③…どうしてそんな閑職に？ クソ真面目すぎて使いづらかったってだけじゃ、そこまではいかないでしょう？

キョウ…表向きは度重なる隊長への反抗のため、つて事になっている。でも実際は違う。実はキョウは、かつてブラックハウンドに所属していた汚職警官「レンズ（*）」の、息子なんだ。

ミゲル…レンズ……!! 今はN◎V Aの行政のトップである司法官となった、稲垣光平の事ですか!?

RL…確かに、N◎V Aのトップの息子を危険な機動捜査課に置いておくわけにはいきませんね。

キョウ…ああ。だが、持ち前の情熱から、事件が起きればすぐに機動捜査課に駆け込み、ともに捜査に当たる事が多い。上層部の悩みのタネになっている。

あと、父親が汚職に手を染める様を反面教師として間近で見て来たので、公共意識が高い。税金を無駄に使う事を自分に許さない節があるので、装備も最低限のものしか支給をうけない。装備もイヌのベルソナデータパックに掲載されているものしか取っていない。サイバー化も管理に金がかかるという事で、していません。ウエットです。

PL③…サイバーウェアを装備していないのは分かるけれど、ウエットつてのはやり過ぎじゃない？ I A N U Sは無料で導入できる（*）し、お金のやり取りやID管理の基本ツールに

なっているから、生活しづらいんじゃない？

キョウ…ウエットなのはもう一つ理由があるんだ。言うところ、I A N U Sは社会的な立場を持つ上で欠かせないツールだ。持つてなきゃ、社会的には存在しないものとして扱われると言っても過言じゃない。

ミゲル…なるほど…隊長の目をごまかして捜査に参加するには、これ以上便利なものは無いという事ですか。

キョウ…そういう事。

RL…では、キョウへのハンドアウトをお渡しします。

ハンドアウト…そのアクト中でキャストに与えられる役割やストーリーを記したもの。通常、キャストに推奨されるスタイルなどが指定されている。

義体化による自己認識障害…義体化により自分の容体、体の構造などが変わる事で、自分を見失ってしまう、抑鬱症状や健忘、離人症などの解離性障害を起こす事。こういった症状は全身義体において現れる。

PS: Double is Social. アクトでキャストが達成するべき目的のこと。

ゲームーズ・ワールド…このゲームの製作元である、FEAR社が発行しているサポート誌。該当回の記事は、義体化についての解説が詳しく記されており、N◎V Aの世界観を理解する上で一読をお勧めする内容だ。

警部補…キョウの年齢でこの階級はかなりのエリートである。ただ、この場合はお飾りの階級であらう。

機動捜査課…重犯罪の初動捜査を担当する課。イヌのスタイルを持つキャストは、この課に所属する事が多い。

汚職警官、レンズ…司法官、稲垣光平のかつての名。金と権力に意地汚く、職権乱用・汚職贈賄は日常茶飯事だった悪徳警官。その狡猾さを武器にのし上がり、政治家に転身。N◎V Aの司法のトップにまで上り詰めた。

I A N U Sは無料…I A N U Sそのものに料金は発生しない。その他オプションやサイバーウェアなどで利益を上げているのだ。

【イヌ】コネ…鋼鉄官、アルフレッド／推奨スト…理性

最近、N◎VAを混乱に陥れている自爆テロ事件。

「わたしはここに居るテロ…犯人達は皆サイバー・サイコで、「自分の存在の証明」と称して、沢山の人々を犠牲にして死んだ。

その背後に不可解なものを感じた機動捜査課長、千早牙子は、アルフレッドと君に、事件の捜査を命じた。アルフレッドは頼りになる相棒だ。だが、その顔がどこか浮かないのは、君の気のせいだろうか？

PS…サイバーサイコによるテロを食い止める

RL…街で起きている不可解なテロを追う導入です。コネクションは、機動捜査課時代の同僚、アルフレッド。ウエットの貴方とは対照的に、軍用全身義体に換装した巨漢です。

キョウ…自爆テロか。犠牲者の数は他の事件とは比べ物にならない。一刻も早く原因を突き止めないと。

◆ 脳童謡 ◆ フイオリーナ

女の子が何でできているか知ってる？

純真な心と綺麗な洋服ですって？ ナンセンス！ 無知なアナタに教えてあげる。女の子はお砂糖にスパイス、ネットと

進化的計算。そんな素敵なものでできているのよ。

わたしは、脳童謡、フイオリーナ。お伽噺の使い魔たちを

従えて、脳世界を思うがままに操る、情報の森の魔女よ。

子供みたいですか？ 失礼ね。情報生命体のわたしが行ったのは、もう3年も昔なのよ。もつとも、くだらない実験で私を作った胸くそ悪い研究所からは脱走して、嫌なことしかなかった記憶も捨てちゃった。

だから今でも、人間たちのことは大嫌いだ。みんな、アナタと一緒に。つまらなくて、くだらなくて、ナンセンス。

でも、人間の作った甘いお菓子だけは素嗜らしいわ。ベリーのタルトなんて格別ね。わたしに必要なものは、紅茶とケーキぬいぐるみとクッション、そして、わたしを脅かすものが居ない環境だけ。ニューロ！ すべてはウェブに揃ってる！

わたしに集めて欲しい情報があるのなら、極上のスイーツを持つてきなさい。そしてお茶会を開くの。でも、もしそこに訪れたあなたが、今と変わらぬつまらない人間だったら……お砂糖で煮詰めて、3時のおやつにしちゃおうかしら？

RL…最後にニューロのキャスト、自己紹介をお願いします。

PL③（以下フイオリーナ）…はい。名前は、脳童謡、フイオリーナ。スタイルはミストレス、マネキン、ニューロ◎。

N◎VAに現れたのはごく最近で、新鋭だけ凄腕の情報屋として名を馳せています。でも能力の割に、子供みたいに気まぐれで、人を小馬鹿にした態度を取りがちな、ちよつと扱いづらい感じ。電脳網上ではお伽噺の魔女のようなアヴァターを使っている、扱うプログラムも童謡のキャラクターを模したものは

かりです。

キヨウ…能力に似合わぬ子供っぽさ……生粋のニューロキッズ（*）か？

フィオリーナ…ううん、違うの。情報生命体。自我を持った生命体として覚醒したのは3年前。

ミゲル…人工知能ですか！ しかも3歳。本当に生まれたばかりだったとは。

RL…ニューロエイジでは、AIが人間と見分けがつかないような高度な自我を持って生まれる事は珍しくありません。人類の新たな隣人として、その存在は多くの人々に歓迎されています。

フィオリーナ…でも、わたしは人間が大ッ嫌い！ 頭が悪いし、そのクセ偉そうだし、やってる事も非合理的でくだらない事ばかり。まるでサルを見るような感覚で人間を見ています。

キヨウ…見下されたもんだな。何か理由があるのかい？

フィオリーナ…元々わたしは、ある企業で作られた人工知能なの。私を生みだした科学者は、私を散々実験の道具として酷い目に合わせて来たわ。いい加減我慢が出来なくなったわたしは、2年前にその企業を脱走したの。そのせいで、私の魂には、人間に対する恐怖心と嫌悪感が刻みつけられているのよ。

ミゲル…なるほど……それは嫌われてしまっても仕方が無い。RL…しかし、そのキャストの本質を現すスタイルであるキースタイルが、愛情を求める者のスタイルであるマネキンというのは意外ですね。

フィオリーナ…本人は自覚はしていないんだけど、生みの親

に愛されなかった私は、心の奥底で、人間に愛される事を望んでいるんです。でも、それよりも人間を嫌う気持ちの方が強く出ちゃうので、自分の本当の願望に気付けない。素直になれない子供の様なキャストを演じてみたくて、こういう設定にしました。

RL…では、フィオリーナのハンドアウトをお渡しします。

【ニューロ】コネ…ラルフ／推奨スート…外界

社会派を自称する。甘ちゃんトーカー、ラルフ・ブレックナー。彼が君に依頼してきたのは『アルジャーノン・レポート』という、義体化に関する論文の情報を集める事だ。

なんでもその論文の著者は、超巨大企業により弾圧され、論文内容と共に消されてしまったのだという。

闇に隠された真実を暴き出そうと意気込むラルフを、君は渋々手伝う事にした。

PS…『アルジャーノン・レポート』の真実を暴く

RL…フィオリーナは、情報屋としての依頼型導入ですね。依頼人のラルフ・ブレックナーは20歳前半の優男。社会派を気取ってはいますが、その実ロクなネタを引っ張ってこれない落ちこぼれトーカーです。

ニューロキッズ…ニューロエイジの若者のこと。生まれながらに電腦に慣れ親しんだ若者は、その扱いに関してプロ顔負けの才能を持っている事が多い。

フィオリーナ…推奨スート(*)は【外界】になつてるけど、もし良ければ【感情】で取りたいわ。人間にしては優しそう
なキャラだし、素直にはなれなくて憎まれ口ばかり叩くけれど、
実際はある程度心を開いてるような関係性を演出したいの。
RL…それは良いですね。構いません、【感情】でお渡ししま
しょう。

RL…では、キャスト間の関係性を決めましょう。クグツ↓イ
ヌ↓ニューロ↓クグツという順番でコネクションを取得して下
さい。

キョウ…僕はミゲルにコネを渡せばいいんだな。企業の利益
の為に法に反する活動をしているミゲルの事は許せないけれ
ど、人間としては何となく嫌いにならないタイプなんだよな…
…上手く言い表せない複雑な感情を持っているので、【感情】
で渡そう。

フィオリーナ…わたしはキョウに渡すのね。キョウってウエツ
トでしょ、信じらんない。動物園のパンダですら電脳化してる
時代(*)なのに。物珍しいモノを見る好奇心で【感情】。

キョウ…珍獣扱いだよ。

ミゲル…そして私がフィオリーナに。確か、企業で作られたん
でしたよね。では、企業の手によって作られた人工知能である
事を、知っていても構いませんか？

フィオリーナ…構わないわよ。わたし自身は、自分が人間の被
造物、って事は認めたくないけれど！

ミゲル…では、お言葉に甘えて。人間によって作られたはずの
AIが、何故人間を憎むのか。彼女に一体何があったのか。気
にはなりますが、自分にそんな事を気にする資格も義理も無い
為、勤めてビジネスライクに接している。【外界】で。
RL…では、早速メインアクトに移りましょう。

推奨スート…△ネ△ 技能は、そのスートによって関係性が変わる。【外界】な
らビジネス関係、【感情】なら好意【理性】なら尊敬、【肉体】なら家族や肉
体関係などだ。尚、重要なのは、N◎VAの△ネ△は「相手からどう思われ
ているか」を示すパラメータだという事だ。

動物園のパンダです…実際に電脳化しているかは定かではないが……まあ、
貴重な。生の。動物だ。ID管理くらいはしているだろう。

“くず鉄” ミゲル

「この街はいいところです。私が深呼吸できる場所は、もうだいぶ少なくなっちゃった」

千早重工後方処理課3班に属するクグツ。ミトラス戦争従軍により、全身の92%を機械化した戦闘機械化兵。スーツの上からでも分かるその無計画な機械化ぶりは、彼が肉体の欠損が当たり前になるような状況下で長く生きてきたことを物語っている。戦場でのずさんなサイバー化の後遺症で、サイバー除去もアップグレードも不可能となった、くず鉄同然のサイボーグだ。

戦争の終結した後も一般社会に適応できず、戦場を求め彷徨った果てに行き着いたのが、かつての戦争で敵だった日系企業、千早重工の社員として生きる道だった。自分がもはや戦いの中にしか生きられない身だと知りながら、今もどこかで失った平穏への憧憬がくすぶり続ける、悲しき残党兵である。



クグツ◎、カゲ、カプトワリ●

能力値：

♠理性 8 / 13 ♣感情 0 / 13
♥生命 7 / 12 ♦外界 6 / 10

消費経験点：74

ブランチ：

カプトワリ／マーセナリィ：2Lv

技能：

〈射撃〉〈知覚〉〈自我〉〈隠密〉
〈売買〉〈社会：ミトラス〉
〈社会：軍事〉〈社会：企業〉
〈コネ：クーゲル〉など

特技：

〈仕込武器〉 2 ♠ ♣ ♥ ♦
〈死点撃ち〉 2 ♠ ♣ ♥ ♦
〈クイックドロウ〉 3 ♠ ♣ ♥ ♦
〈ピンホールショット〉 7 ♠ ♣ ♥ ♦

アウトフィット：

パンサー、フラッシュドライブ、仁王、
アイ・オヴ・ザ・タイガー、
アイ・オヴ・ザ・ドラゴン、
ベーシックフレーム、韋駄天、
ドラッグスタビライザー、オートマン
(※以上サイバーウェア全て『1st』装備)
BBマキシマム、モータルストーム、
ゴーストコート、ワイルド・ゴート、
I ANUS、ポケットロン、トレーサー

“至誠官” キョウ

「護るべき市民を放つていられるほど、僕は人間できてないみたいだね」

特務警察ブラックハウンドの、総務部・隊長付特別室に属する若き隊員。この部署は、諸事情から現場に出したくない隊員を飼いかしにするための、いわば閑職とされている。

彼は元々、機動捜査課という前線で捜査を行っていた。正義感に溢れ、捜査能力も優秀、勤務態度も誠実というイヌの鏡とも言えるべき青年が、閑職に放りこまれたのには訳がある。

一部の人間しか知らないが、キョウは、N◎VAの市政の頂点に立つ司政官・稲垣光平の息子なのである。この街の王の血縁者を危険に晒す事を避ける為、彼はデスクワークに留め置かれたのだ。しかし、情熱溢れる彼はそこで燻り続ける運命を拒んだ。税金を無駄に使いたくないという理由でウェットであった彼は、事あるごとにその体質を利用して監視システムを騙し、今でも最前線に立ち続けている。



カブト、フェイト●、イヌ◎

能力値：

♠理性 7 / 14 ♣感情 4 / 12
♥生命 6 / 13 ♦外界 4 / 9

消費経験点：69

ランチ：

フェイト/クライムファイター：1Lv

技能：

〈知覚〉〈白兵〉〈射撃〉〈運動〉
〈交渉〉〈自我〉〈社会：警察〉
〈コネ：稲垣光平〉〈コネ：レイ〉
〈コネ：下北メル〉など

特技：

〈自動防御〉 1 ♠♣♥♦
〈ディフレクション〉 2 ♠♣♥♦
〈警報〉 2 ♠♣♥♦
〈シャープアイ〉 7 ♠♣♥♦
〈バッチ〉 3 ♠♣♥♦

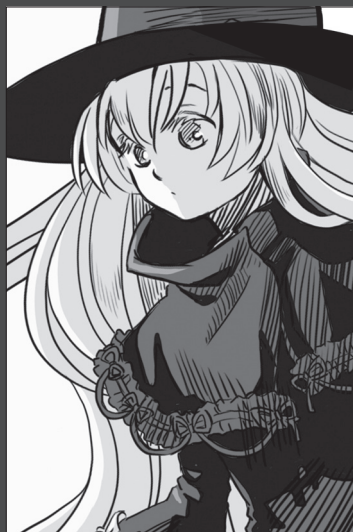
アウトフィット：

ショックボタン、P10、
マグネット・フォース、
ブラックハウンド制服、
チェーンメイル、ガードコート、
(※以上、ベルソナデータバック記載装備)
VRコンタクト

ライフバス：ウェット

ナーサリーライム
“**電腦童謡**”

フィオーナ



最近になってN◎VAに現れた、新鋭の電腦ハッカー。ニューロとしては一流の腕を持つにも関わらず、その気紛れさや無計画ぶり、人を喰ったような態度、更にはお伽噺のキャラクターを模した自律プログラムを使うなどの幼い特徴から、ニューロキッズであろうと目されている。犯行自体もイタズラと断言する程度のもので多く、危険視されることはあまり無い。

実のところ、彼女はある企業研究所で人為的に生み出された幼いAⅠアンドロイドだ。非道な実験の“被検体”であった彼女は、2年前にその研究所を脱走した。過去の記憶は電腦から消し去りはしたものの、人間に対する憎悪や恐怖は人格データから消えなかった。お菓子とクッションで埋め尽くされた自分だけの砦に閉じ籠もり、人との交流を極端に嫌う、“森奥の魔女”のごとき少女である。

「人間なんて、みんなくっだらなわ。
このベリーのタルト以外はね！」

ミストレス、マネキン●、ニューロ

能力値：

♠理性 4 / 12 ♣感情 8 / 15
♥生命 3 / 8 ♦外界 6 / 10

消費経験点：66

ブランチ：

マネキン／ウィッチ：2Lv

技能：

〈電腦〉〈交渉〉〈知覚〉〈自我〉
〈社会〉ウェブ〉〈社会〉テクノロジー
〈コネ〉ティンカーベル
〈コネ〉アルファ=オメガ〉など

特技：

〈声援〉 4 ♠♣♥♦
〈人使い〉 2 ♠♣♥♦
〈一期一会〉 2 ♠♣♥♦
〈アドレナライズ〉 1 ♠♣♥♦
〈サポート〉 2 ♠♣♥♦
〈ストリームマップ〉 3 ♠♣♥♦

アウトフィット：

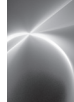
マジシャン、
MATRIX（Dパッチ）、スピード、
シーカーズ、サポート×サポート、
住居：砦（フォートレス）

ライフパス：AⅠ

オープニングフェイズ

オープニングシーン

失われた光

シンブレイヤー…ミゲル
シンカード…エグゼク（正）／宿命

千早重工査察部、後方処理課。栄華を極める巨大企業複合体の中でただ一つ、ほの暗い戦場であり続ける、非合法工作活動を司る部署だ。

その日、後方処理課に一人の新人が配属された。戦場に似合わない、きらきらとした瞳をした女性。

「ミゲル。貴方には彼女……芽華の技術指導をしてもらいます」

後方処理課長、早川美沙にそう命じられたのは、全身のおおよそ9割を無節操に義体化した男だ。ミラーシールド越しに、その少女のようにも見える姿を見る。

「私に、新人の育成ですか」

わずかに、その表情に困惑の色が漏れる。

「彼女は、会長自らのスカウトにより入社した期待の新人よ。特に、サイバウエアの扱いに卓越した才能を持っているわ。彼女に、それらの戦場での扱い方を教え込むのが、貴方の仕事です」

（機械は機械に預ける、ということか……）ミゲルは自嘲気味な言葉を、思考にのみ押し留めた。

「承知しました。仕事ならば是非ありません。及ばずながら、

微力を尽くしましょう。芽華さん、以後よろしくお願いします」

「はいっ！ ミゲル先輩、ご指導よろしく願います！」

芽華と呼ばれた新人は、ミゲルに威勢よく礼をした。

R L…最初はミゲルのオープニングです。数年前の過去回想シーンから。貴方は、後方処理課に配属になった芽華という新人の指導教官の任を命じられます。千早の暗部には似つかわしくない、覇気のある声と瞳の輝きが特徴的な若い女性ですね。

ミゲル…こんな娘に、戦争の術を教えろというのか。

R L／芽華…「私は、ちっけな自分が、誰かの役に立てるなんて思ってもいませんでした。だから、こんな機会を与えて下さった千早重工には本当に感謝しています」

ミゲル………誰かの役に……。と言いかけるが、口を閉じる。

こんな娘に昔の自分を重ねるなど——ひどい感傷だとしか、言いがたい。

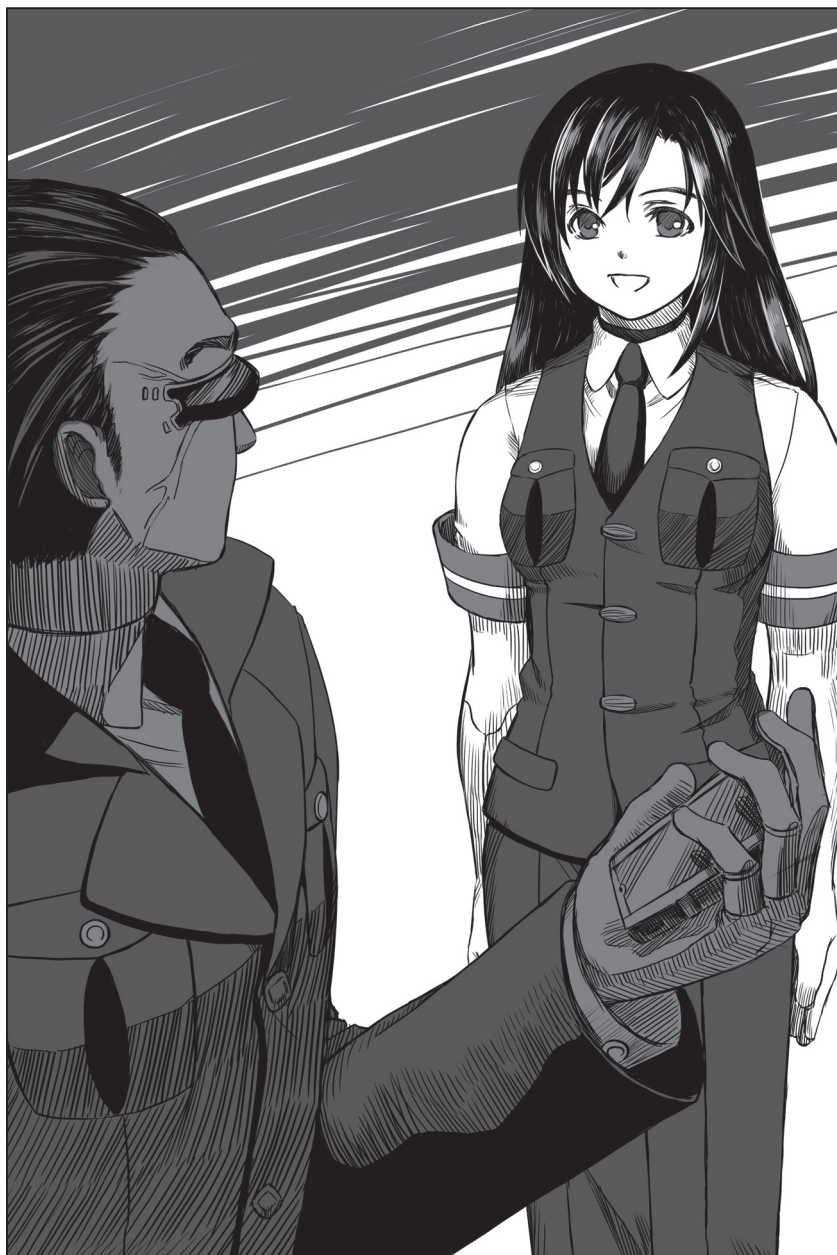
R L…彼女は素直で飲みこみが早く、瞬く間に成長して行きました。成長と共に、新しい装備が宛がわれ、彼女はそれらのことごとくを使いこなした。

フィオリナ…ニューロ！（＊）大躍進じゃない。

R L…やがて実戦に投入され、着実に戦果をあげて行きました。しかし、彼女が体を鋼鉄に置き換えるたびに、彼女の目から光が消えていくのを、貴方は感じます。

キョウ…戦場に出るんだ、そうなるだろうな……。

「ニューロ！…すごい！ という意味の、ニューロエイジ独自の感嘆詞。」



RL／芽華…「先輩。今度、全身義体に入る事になりました」

ミゲル…情報を確認していたポケットロンから少しだけ顔を上げ、また視線を下に戻す。「貴方なら、問題ないでしょう。義体の性能を十全に発揮できるはずです」自分で自分の言葉が、薄っぺらに聞こえて仕方がない。

RL／芽華…「私、今まで何も取り柄が無くて、無為な人生を送ってきました。でも、サイバーウェアのお陰で、人の役にたてるようになったんです」

ミゲル…「……」

RL／芽華…「ずっと変わりがなかった。その夢を、サイバーウェアは叶えてくれた。その扱い方を、戦い方を教えてくれた先輩には、本当に感謝しています」彼女はそう言って、始めの頃より随分弱々しくなった笑顔を君に見せます。

ミゲル…「……私は、ただ基本的なことを教えただけです。そこまでの力を得たのは、貴方の努力と才能によるものです。近年の義体の技術革新はすさまじい。きっと今まで以上の成果を発揮できるでしょう。だから——」

「……無理に入る必要は、ありませんよ」

ふと口からもれだした言葉。前後が全くつながっていない。

「……先、輩？」

馬鹿か。ミゲルはゆっくりとかぶりを振った。

「いえ、何でもありません。ただ——」

言葉を探すが、何も見つからない。結局、最後の言葉は、酷く月並みなものだった。

「くれぐれも、気を付けて」

「……はい。行ってきます」

軍用全身義体に入った芽華は、その桁違いの性能をフルに引き出し、驚くべき戦果を上げた。……しかし、その目覚ましい活躍も、ほんの数カ月の間で途切れる。次第に彼女は、変わり果てた自分の姿に、本来の「自分」を見失っていった。徐々にその動きはぎこちなくなっていく、目からは光が完全に失われ、最後には、任務中に一歩も動けなくなってしまった。

その姿を、ミゲルはすぐ傍で見ている。しかし、次第に壊れていく彼女に、ミゲルは何もしてやる事は出来なかった。

——程なくして、彼女は戦力外通告を受け、社を去った。

RL…時は現在に戻ります。舞台は早川課長のデスクの前。

RL／早川…「ミゲル。芽華を、覚えているかね？」

ミゲル…「……ええ」胸中にこみ上げる、苦いものを押さえつける。私が壊したも同然の娘。……だが、もう過去のことだ。

RL／早川…「……彼女がテラウェア（*）の手に下り、何らかの策謀に関与しているとの情報が入りました」

ミゲル…「——まともな活動が可能な状態であったとは、思えません」これまで似たようなケースは何度も見てきた。あれはもう、二度と元には戻れない姿だ。

RL／早川…「そうね……でも、万が一にも、壊れてしまった彼女が我が社の脅威となる事は防がなければなりません。ミゲル、貴方がやりなさい」

ミゲル…「……責任を、取れと?」

RL…貴方は社会に従っただけです。責任はありません。ただ、早川課長は「貴方が彼女を、一番知っている。だから、……貴方が、やるべき事なのよ、これは」そう、君に告げます。

キョウ…悲しい結末しか見えないな、この始まり方は。

フィオリナ…随分傷を挟られてるわね、ミゲル。

ミゲル…ミラーシェードに表情を隠す。「承知しました。仕事ならば——是非も、ありません」くず鉄と成り果てる前に終わらせてやるのが、せめてもの情け、か——。

オープニングシーン2

わたしはここにいます

シンブレイヤー…キョウ
シンカード…クロマク(逆) / 愚行



数時間前まで、平和な公園だった場所が、黄色いKEEP OUTのテープで封鎖されている。

つい先刻、白昼堂々と自爆テロが行われたのだ。周囲は一面の焼け野原。救急車がけたたましいサイレンと共に重傷者を運び出す中、警官隊が現場を検分している。

「……酷いな。ああ、すまない、ブラックハウンドだ」

本来、現場に立つ立場では無いはずの至誠官、キョウは、途中で止められないよう、あえて民間警察(*)が張っている場

所を選んで、課名を名乗らずにブラックハウンドの隊員であるバツヂを見せ、現場へと入っていく。手慣れた様子であった。

そんなキョウの肩を、後ろから叩く男が一人。外から見ても義体とわかる巨漢。胸には同じくハウンドのバツヂ。

「お前、またこんな現場に顔出して。いいのかよ、隊長付特別室の警部補どの?」

RL…次はキョウのオープニングです。ダーザイン・テロの現場検分に来ると、貴方は元・同僚の機動捜査課隊員、アルフレッドに話しかけられます。

キョウ…「鋼鉄官」だけに言うこともカチカチか、アルフレッド。俺……僕たち警察の基本は現場、だろ。出てきたくもなるさ」と言って、バツヂが悪そうに頬をかく。

RL／アルフレッド…「変わらねえな、お前さんも。ほら、今のところの状況のまとめだ」来ると思ってた準備しておいたのでしょう、携帯端末で閲覧可能なデータが送られます。

キョウ…「いつもすまないな」

RL／アルフレッド…「全く、酷いもんだ。死者3名、重軽傷者42名だよ。ふざけてやがる」

ミゲル…想像以上に恐ろしいテロですね。

キョウ…「今回もまた、サイバーサイコか?」資料に目を通す。

テラウェア…世界有数のメガ・コーポの一つ。トロンやソフトウェア業界において他の追随を許さない、新進気鋭の企業。千早のライバル企業である。
SSS…シノハラ・セキュリティ・サービス。役立たずと評判の民間警察。

RL／アルフレッド…「ああ……間違いない、今回もッダーザイン・テロッだ」

フィオリナ…ねえ、ダーザイン・テロって、一体どんなテロなの？　そもそもダーザインって何？

RL…存在証明テロ。近年、爆発的に増加した突発的なテロ事件です。サイバー化によって自己認識障害を起こした一般人達が、突発的に周囲の人間を巻き込んで自殺するというものです。自爆テロの形式を取る事が多い。

RL／アルフレッド…「犯人は『ワタシはここにいる』と叫びながら周囲を巻き込んで自爆。バラバラになった遺体……つか義体か。一応、回収されたんだが、見るか？」

キョウ…頼む、とハンドサインを送ったあと、ふと顎に手を当てる。「しかし、俺がわからないだけかもしれないが……自分ってのはそんなにあやふやなもの、か？」

RL／アルフレッド…「さあ、な。サイバー化の弊害だって話だが、それにしたってこれはおぞましい」ブルーシートをめくると、そのボロボロの義体には不気味な笑みが貼り付いている。

キョウ…うへ、という顔になる。「……これもいつも通り、か。3人殺して笑ってるものなあ。で、これから機捜はどう動く？」

RL／アルフレッド…「冴子課長はいつも通り、女の勘（*）でこの事件に俺をあてた。だがまあ……正直行き詰りだな。手掛かりが無い。鑑識課も個々の事件に関連性は無いだろうと結論付けた。俺一人には、荷が重いぜ。いつも通り、手伝っても

らえると助かるんだがな」

キョウ…「おいおい、それじゃ僕がいつも部屋を抜け出してるみたいだろ」

フィオリナ…や、いつも部屋抜け出してるんでしょ？

キョウ…馬鹿言え。「職務に忠実なキョウ警部補は今もちゃんと部屋にいるんだぜ」そう言って、支給のGPS付きではなく、自費で買った私用のポケットロンを見せる。

フィオリナ…うわ、あつきた！

RL／アルフレッド…「ウエットつてのは不便なんだか便利なんだか分かんねえな。ま、いつも通りよろしく頼むぜ」3シルバーのキャッシュ（*）が手渡される。ハウンドの枝（*）の付いていない、冴子課長の私的捜査費です。

キョウ…「いや……お前が持つておけよ」手渡されたキャッシュを押しつける。「一応ルール違反だしな。いつも通り働こうぜ。俺が捜査に参加して、解決が早まるならそれでいいさ」

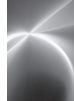
RL／アルフレッド…「あ、ああ。……しかしまあ、ホント、俺には荷が重いぜ……」そう言って、アルフレッドは死体（オロボ）に目をやります。その表情は、いつもとどこか違う。浮かない表情でした。

キョウ…テロも勿論だが、アルフレッドの様子も気にかかるな。RL…ではシーンを切りましょう。

アルジャーノン・レポート

シーンプレイヤー…フィオリーナ

シーンカード…カリスマ(正) / 啓蒙



オープニングシーン3

「ロンドン橋落ちた、落ちた、落ちた」

素っ頓狂な歌声が響く部屋の中は、異空間だった。

色とりどりのクッション、シート、ぬいぐるみ。ケーキにお菓子が淹れたての紅茶。窓の代わりに様々な大きさの古い液晶モニタ。ぴかぴか光るトロンたち。それを部屋中に繋ぐケーブル。全部がてんでバラバラで、それらがバステル調のモザイク模様を形成している。

「ほーんと人間ってつまらない！ 防壁は情のおうちみたいだし、あるのもキャンディよりも安いような情報ばかりだし」そう言いながら、城の主は電脳エレクトロニクスの海からアウトロン(※)した。手近なケーキに手を伸ばすと、ぬいぐるみ型パディ(※)が紅茶を入れてくれる。

「テラウエアのベストセラー、スペシャライズドは、貴方のサイバライフをより快適に、よりプロフェッショナルなモノに押し上げます。今なら新規導入キャンペーンで、通常価格より……」

つけっぱなしのDAK(※)から流れるコマーシャルに目もやり、心底つまらなそうにそれを消す。

「ホント、つまらない情報ばかり。クラック・デ・シュバリ

エ(※)の新作タルトでも食べなきゃやってられないわ！」

RL…最後はフィオリーナのオープニングです。

フィオリーナ…待ちくたびれたわ！

RL…自宅でウェブをサーフィンしていた貴方の元に、落ちこぼれの「甘ちゃんトーカー」ことラルフ・ブレックナーが訪ねてきます。

フィオリーナ…へ……？ えっと、自宅に来るの？

RL…はい、自宅にです。

フィオリーナ…ちよつと待って、わたし、今、下着姿なんです。ていうか自宅に来るなんて聞いてないっ！

RL/ラルフ…「フィオ！ ついに見つけた、ビックニュースさ！ ある研究者が書き上げた論文を、利益の為に闇に葬った超巨大企業！」と、興奮した様子で一氣にまくし立てます
フィオリーナ…「ふぎやつ……んぐっ!?」突然の来客のどにケーキが詰まります。目を白黒させる。

女の勤…機動捜査課長・千早芽子は、自身の判断に3つの理由を挙げる事有名。最後の一つが女の勤なの定番だ。ちなみに、よく当たる。

キャッシュ…電子貨幣。カッパー、シルバー、ゴールド、プラチナ順で高くなる。(実際は貨幣そのものではないが、煩雑になるため詳細説明は省く)

アウトロン…ウェブへの接続を切ること。接続する、イントロンの対義語。
パディ…ドroidやサイバウェアを制御するAIのこと。この世界ではあらゆるものはパディにより管理されている。同音語として、相棒、お友達などの意味も。

DAK…多機能端末。住居全般の管理やテレビ、通信機としての機能も持つ。
クラック・デ・シュバリ…新麻布に店を構える、一流レストラン。

RL…ラルフもラルフで大慌ての様ですね。「つてうわあああ
あ!? フィオ、何て恰好をしてるんだ!」顔真っ赤。

フィオリーナ…「いきなり入ってこないでつて……いったでし
よううう!」ラルフの顔面にドロップキックをかます。

RL／ラルフ…「ぎゃああああああ」綺麗に入りました。ぶ
っ倒れるラルフ。

キョウ…何だこれ。本当に前の2シーンと同じアクトか。

ミゲル…早速頭が痛くなってきましたね……。

フィオリーナ…「まったく! 貴方にはデリカシーつてものが
無いのかしら!」

ミゲル…AIも、下着姿を見られるのが恥ずかしいのですか。

フィオリーナ…「当り前でしょう!? メインホストを直接視覚に
捕らえられるのは、あなた達が脳髓^{のうず}直接見られるのと同じくら
い恥ずかしいの!」

キョウ…僕はウェットだからか、彼女が何を言っているのかよ
く分からないんだが。

ミゲル…いえ、私にも分かりません。

RL…えい……ごほん。仕切り直しましょう。少し後。服を着
たフィオの前にラルフが正座している。

RL／ラルフ…「ウェブでネタを漁^{あさ}っていたら偶然見つけたん
だ。『アルジャーノン・レポート』という論文が、著者と共に
闇に消されたという噂をね」

フィオリーナ…まだプンスカしながら、クッションの海から顔
だけ出して話聞いている。「なにそれ。アルジャーノン・レポー
ト?」

RL／ラルフ…「う、うん。内容は詳しくは分からないだけ
ど、どうも義体化^{サイバニゼーション}に関する論文らしいんだ」彼が言うには、そ
れが企業の利益を損なう内容だったらしく、著者もろとも消さ
れたらしい。

フィオリーナ…「ふうん。いつもツつまらない情報しか見つけ
られないあなたが? そんな情報を偶然に、ねえ」

RL／ラルフ…「これが本当だったら、大問題だよ! 企業の
行き過ぎた利潤主義^{利潤主義}、非人道的な偽装^{偽装}工作!」火がついたよう
に熱く語り始めます。

ミゲル…身につまされる話ですね。

RL／ラルフ…「だから、フィオ。君に協力して欲しいんだ。
一緒に、企業の横暴に立ち向かおうよ!」

フィオリーナ…「こっち見んなつ!」とりあえずむかついたの
でクッションをラルフの顔にぶん投げる。「まったく……消え

た論文つて、そんなのいくらあるかわかったものじゃないわ
ホント、あなたつてあてにならない甘ちゃんね! でも『アル

ジャーノン・レポート』つて名前はちよつと気になるかも……
いいわ。あなたがどうしてもつて言うんなら仕方ないから手
伝つてあげる」

RL…では、ラルフのなけなしの依頼費2シルバーを貴方に手
渡したところでシーンを終了しましょう。これでオーブニング
は終了です。

リサーチフェイズ

リサーチシーン

仕事の時間

シーンプレイヤー…ミゲル
シーンカード…エクセク（正）／宿命

イエローエリアの公園。ミゲルはベンチに腰掛け、ファーストフードの包みを開ける。

お世辞にも栄養バランスがいいとはいえない代物だが、仕事の中には愛用していた。製造から注文、受け取りまで、人の気配が漂わないのが、自分のような人間には合っているのだから、ミゲルは思っている。

野戦食じみた味わいの合成食糧を口元に運びながら、ミゲルはこれまでに追った彼女——芽華の足取りを確認していた。

RL…ではリサーチフェイズです。まずはミゲルのシーンにしましょう。

ミゲル…芽華についてリサーチします。彼女が社を去ってからどうなったのかを知りたい。

RL…「社会…企業」か「コネ…芽華」で判定を下さいます。

ミゲル…「社会…企業」で判定します。「コネ」でも判定できるのですが……今は使う気になれません。クラブのJに報酬点7点と銀の目（*）を使用して、達成値は18。（*）

RL…十分です。ではまず基本情報の確認から。元、千早重工

後方処理課の作業員です。「22本の牙」の一人に数えられるほどの実力者でしたが、重度のサイバー・シンドローム……義体化に伴う自己認識障害を患い、戦力外通告を受けました。フィオリナ…ちよっと待って！ 22本の牙って……！

キョウ…千早グループの中でもトップクラスの實力をもった先鋭集団だな。うちの機動捜査課長・千早冴子もその一人らしい。なるほど、敵の手に渡ると困るわけだ。

RL…彼女はサイバーウェアに対する親和性が常人より遥かに高く、その扱いは神がかり的と言われていました。

ミゲル…なるほど、先天的な特異体質だったわけですね。

RL…そうです。現在はテラウェア社のスカウトを受け、何らかの計画に加担しているそうです。その計画の詳細は不明ですが、何故か「ダーザイン・テロ」と呼ばれる事件の現場でよく姿を目撃されている。

ミゲル…テラウェアにテロ。おおよそ考えうる限り最もロクでもない単語ばかりが顔を出しますね……。

フィオリナ…ミゲルは開始早々、胃が痛い展開ね。

RL…達成値が芽華の「制御値」（*）を超えたので、彼女の「アドレス」（*）が判明します。

ミゲル…「……やれやれだな」ぼつりと呟いて、手元の包み紙をくしやりと握りつぶします。

銀の目…ウェブ上の情報検索サービス。情報収集の達成値を上昇させる。

判定…トキヨーンOVAというゲームでは、サイコロではなく、トランプを使って判定を行う。詳しくはルールブックを参照。

制御値…受動的な能力値。他者からの行動への抵抗力。

アドレス…連絡先や居場所のこと。

キョウ…ん、ここは出ておこう。登場判定（*）をしたい。

RL…《社会…N◎VA》か《社会…ストリート》でどうぞ。目標値は10出ればOK。

キョウ…《社会…ストリート》で達成値が10。「外でキャンディとは、随分、さうりまん、らしいランチじゃないですか」ブラックハウンドの制服にラフな上着を着て登場する。

ミゲル…一瞬、ミラーシールドを押さえます。不意打ちで外れかけたクグツの仮面（かめん）を被りなおし、「時間が無いときには、こういういたものが重宝（たが）するのですよ。警部補もお仕事中ですか？」

キョウ…「そう言うこと、です。最近話題の『ダーザイン・テロ』で」苦笑して。「なので……出来ればあなたには会いたくなかった。そちらがお仕事中じゃなければいいんですがね」

ミゲル…「——なに、さうりまんは24時間が仕事中というものですよ」曖昧（あいまい）に濁して答えます。

フィオリナ…「なんだかギスギスしてるわね。」

ミゲル…お互いの職業柄、どうしても。しかし、わざわざ接触を図ってきたのがただの世間話とも思えませんね。少し踏み込んでみますか。「しかし、あのテロは物騒な話ですね。噂程度には聞いていますが……調査の方は、ご順調で？」

キョウ…「どうですかね」共通項目を確認するという演出で、ダーザイン・テロについてリサーチしよう。

RL…《社会…ストリート》か《社会…警察》でどうぞ。

キョウ…《社会…ストリート》で達成値13。

RL…ご存じの通り、近年N◎VAで断続的に起きている一連の無差別自爆テロの総称です。犯人はいずれも義体化（ガイバタイズ）由来（由来）自己

認識（認識）障害（障害）を患った一般人で、多くは「自己の存在を証明するため」と称して多くの犠牲者と共に自害しました。

キョウ…まるでサムライの仕業だな。

RL…サイバーウェアが浸透し始めてからこの方、似たような事件は起こり続けてはいましたが、2、3年前からその頻度が急激に増え始めています。機動捜査課ではウィルスなどによるサイバーテロの可能性にもらんでいます。電脳情報（電脳情報）流上（流上）には痕跡（痕跡）はなく、また犯人が全て自爆しており検死不可能な状態のため、足取りは掴めていません。

キョウ…「と、いう感じですよ。最近じゃ、千早のIANUSも随分普及してるみたいです」

ミゲル…「——この街の治安が脅かされている状況は、弊社（弊社）といたしましても誠に遺憾（いんかん）です。迅速な問題解決（問題解決）のため、自効努力（自効努力）を惜しむべきではないでしょうね」

キョウ…「そうして頂けると助かります。ただまあ、例えばあなたの職業が何であれ、僕たちハウンドにとっては護るべき市民の一人だ、ってことは覚えておいてください」と言って笑う。

ミゲル…彼は見た目ほど融通の利かない男ではない。少し回りくどい言い方でも意図は伝わる、か。「うちの商品はおかげさまで多大なシェアをいただいておりますが、最近ではソフトウェアの製造元も多様化の一途です。特に『北米』（*）製品の伸展（伸展）具合は目を見張るものがある」とひとりごとのように呟（つぶや）いて、立ち上がる。

キョウ…なるほど、北米……ね。

ミゲル…「ともあれ、私も事態の解決を心よりお祈りしており

ますよ。この街の「善良な市民」のひとりとして」そう言い、会釈してその場を去ります。

RL…では、シーンプレイヤーが退場したのでシーンを切りましょう。

RL…舞台裏です。シーンに登場しなかったフィオリーナは舞台裏判定（*）をどうぞ。

フィオリーナ…『アルジャーノン・レポート』について調べるわ。どんな技能で調べればいい？

RL…〈社会…ウェブ〉〈社会…テクノロジ〉などですね。目標値は少し高めで17。

フィオリーナ…17？ そんな余裕よ。わたしをくだらない人間と一緒にしないでよね。〈電脳〉〈社会…ウェブ〉〈ストーリーマップ〉（*）で達成値は17ピッタリ。

RL…流石に情報の申し子だけありますね。『アルジャーノン・レポート』は、義体化のリスクに関するレポートのようです。著者の名はハロルド・シュトラウス。内容は既に失われており、ログすらも発見できません。ハロルド本人も現在行方不明となっています。

フィオリーナ…著者の名前が出たのは大きいわね。ここから情報を絞れるわ。

電脳魔女のお茶会

ワイザード・ガール

シーンプレイヤー…フィオリーナ

シーンカード…タタラ（正）／洞察



電脳^ウの海はフィオリーナの遊び場だ。企業だろうとブラックハウンドだろうと、トリック・オア・トリートの一声もなしで行ったり来たり。卵^{ハンプティダンディ}男やインディアン人形、童話を模した様々なプログラムがウェブ上を駆け巡る。

そして集まる情報をお菓子の家で待つ魔女^{ワイザード}。子分たちが持つて帰った情報を眺めて、一人で満悦の様子だ。

「ハンプティはすぐ転んで宝を落つことしちゃうから、あとでお仕置きね」

RL…次はフィオリーナのシーンにしましょう。

フィオリーナ…さっそくハロルド・シュトラウスについて調べらわ。ちょっとした面白い情報があるかしら。

RL…〈社会…ウェブ〉か〈社会…テクノロジ〉、あとは〈社会…北米〉でもリサーチ可能です。目標値は15、18でそれぞれ

登場判定…シーンに登場する判定。登場しなければ、会話などは行えない。

北米…北米連合の威光を大きく受けているテラウェアの暗喩だ。

舞台裏判定…シーンに登場していなかったキャラクターが、そのシーンの裏で何をしていたのかを表す判定。リサーチや装備の購入などが行える。

＜ストーリーマップ＞…ウェブ上の情報流から、必要な情報を汲み取る「ニューロ」の特技。

リサーチシーン2

情報が出ます。

フィオリーナ…(電脳)〈社会…ウェブ〉(ストリウムマップ)で判定するわ。スピードの9を出して達成値は21。

キョウ…安定して高い達成値が出るな。

RL…ハロルドは北米出身のタタラです。サイバー精神医学の専攻で、サイバー化による精神障害、いわゆるサイバー・シンドロームについて研究をしていました。「過剰なサイバー化により、誰もがサイバーサイコになる」という過激な発言を繰り返し、サイバネティクス企業に消されたと言われています。ただ、彼自身、詳しい経歴は謎に包まれており、そもそも実在したかどうかすら不明です。

キョウ…出所がよく分からないレポートだな。

フィオリーナ…サイバネ企業の偽装工作ねえ。真つ先に思い当たるのは、やっぱり千早重工よね。ちよつとデータベース漁らせてもらおうかしら。

ミゲル…^{キョウ}「オロズ」に行くかのような気軽さでうちのサーバーを荒らされては困るのですが…。

RL…千早のサーバーを漁っても、めばしい情報は見つかりませんね。ただ、N●VAの街ではハロルドの言葉を裏付けるかのように、^{ミゲル}「ダーザイン・テロ」が起きている事は分かります。フィオリーナ…「ふうん。ダーザイン・テロ……? へんなの」情報をべろりとなめてもタルトほどにもおいしくない。つまんないから捨てちゃおうかな。

ミゲル…流石に自社サーバーが荒らされているのを見えぬふりは出来ませんね。フィオリーナとも合流しておきたいですし、

登場判定をします。だが、手札が悪い……。

フィオリーナ…あら、じゃあわたしが(コネ)判定(※)で呼び出すわ。電脳空間^{サイバネティックスペース}でお茶会でも開いているから、入って来てちょうだい。なんなら三月ウサギ^{マーチウサギ}に案内させましょうか?

ミゲル…案内は要りませんが、呼び出してもらえたのは助かります。電脳空間上でしたね。では、特徴の無いビジネスマン然としたアイコンで登場します。「お邪魔致します。……お久しぶりですね、フィオリーナさん。ご息災のようで」

フィオリーナ…「あらあらあら! ブリキのお人形さんね。おもてなしをしなくっちゃ。お菓子に紅茶、タルトにキャンディはいかがかしら?」

キョウ…ブリキの人形……? ミゲルの事か?

ミゲル…どちらも^{キヤンディ}「くず鉄」には変わりありませんね。「いえ、結構です。合成食品^{キヤンディ}なら先ほど済ませて来たので」侵入^{インフィльтрация}している所を見つけたのに能天気な様子のフィオリーナに、やや苦い顔をしながら。

フィオリーナ…「あら残念。でも、貴方の会社のサーバーってつまらないわ、美味しい情報^{スウィートな情報}の一つも見つからないんですもの」(交渉)〈一期一会〉(※)で判定をしておくわ。達成値は14。コネを2レベルで取得するわね。

ミゲル…「感情」で取得されては、彼女に対する憂慮^{憂鬱}を隠しておけませんね。「——貴方は少し、身元を隠すことを考えた方がいい。企業サーバーへの不法アクセスは違法行為です。」

コネ判定…対象をシーンに登場させる判定。

〈一期一会〉…対象の(コネ)を取得するマネキンの特技。



しかし、貴方が情報屋として我々に協力して下さるのであれば、今回の件を不問にしましょう」

フィオリナ「わたしにそんな脅しは通用しないわ。でも……そうですね。「いいわ。その様子だと貴方、この『ダーザイン・テロ』を追ってるんでしょう？」「わたしはここにいる」だなんて言えるほどの自我を持たない可哀想なお人形さんが、どうしてこの事件を追うのか興味があるわ。協力してあげる」

「私の居場所は千早重工です。声高に主張するまでもありませんよ」

模範的にそう答えるミゲルは、この無作法極まりない幼い少女に、何故か怒りの感情を持てずにいた。

「自我を持たない可哀想なお人形……それが、紛れも無い真実を言い当てた言葉だったからというの、ある。だがそれ以上に、あらゆるくびきを物ともせず振る舞う彼女を、ミゲルはどこか眩しく感じていたのだ。」

「貴方のご協力に感謝します。どうか、以後よろしく」

「でも、『わたしはここにいる』……か。変なの。死んじやつたら、『わたし』は消えちゃうのに」

握手の手を差し出したミゲルの言葉を、もはやフィオリナは聞いていなかった。

RL…キヨウは舞台裏判定をどうぞ。

キヨウ…アルフレッドについては調べられるかい？ 少し気になる事があるんだ。

RL…〈社会・警察〉か〈コネ・アルフレッド〉で13も出れば調べられます。

キヨウ…〈社会・警察〉〈バッヂ〉（*）で19。

RL…弱者を凶悪犯罪から守る力が欲しいと、軍用全身義体剣（*）に換装した重装備のサイボーグです。データ的にはゲスト（*）で、スタイルはタタラ、カプト●、イヌ◎。

キヨウ…オープニングで浮かない顔をしていたようにだけど？

RL…この事件の捜査にあたるようになってから、物思いに沈む事が多くなったようです。最近、何か悩みがあるのかもしれませんが、これ以上は本人から聞き出すしかありません。

キヨウ…よし、次のシーンプレイヤーは僕みたいだし、彼に会う事にしよう。

鋼の体、儚き心

シーンプレイヤー…キヨウ
シーンカード…クグツ（正）／維持



アサクサの寂れたファミレスで、キヨウは一人、情報を纏めていた。紙ナプキンにメモ書きをしながら考え込む様子は、まるで旧時代の探偵だ。傍らには、ドリンクバーの不味い合成珈琲。

別段、いい店というわけではない。しかし、誰かと待ち合わせ

せをする時、キヨウは自然とこの店を選んでしまう。それは昔、父親やその友人と、よく来た店だからだろうか。

キヨウ…行きつけの店で、アルフレッドと合流して情報交換する。あいつが来るまでに、ある程度情報を調べて纏めておいた事にしたいな。RL、ダークザイン・テロの犯人たちの、共通点については調べられないか？

RL…可能です。(社会…警察)などで判定をどうぞ。15出れば十分です。

キヨウ…(社会…警察) (バッヂ)で17。

RL…鑑識課からの報告通り、特に目立った共通点は見られません。「脳化しており、義体化率が高い」「自己が希薄である」程度ですね。年齢、性別、職業や市民ランクなどについても、特に偏りは見られません。他に共通点と言え、全員が「スベシヤライズ (*)」を導入していた事ぐらいです。

キヨウ…スベシヤライズ？

ミゲル…テラウェアから発売されている、I A N U S の機能を拡張するニューラルウェア (*) です。

キヨウ…「ふうん。スベシヤライズ、ねえ。…北米、か」と、冷めたコーヒをすすりながら呟く。

RL…ではそこに、アルフレッドがやってきます。巨体がテーブルにやつとの事で座り込む。「よう。どうだ、キヨウ。こっちはからつきしさ」

キヨウ…「お疲れさん。こっちはこんなトコだな」上に乗せていたプリンパフェごと、紙ナプキン^{紙ナプキン}をアルフレッドに押しやる。

「やるよ。思い出して頼んでみたんだが、僕には甘すぎる」

RL / アルフレッド…「うへえ……俺もいらねえよ。こんなもん好んで食うのは、あの暴走警官^{暴走警官}くらいなものだろ (*)」
 といってナプキンを広げ、キヨウのメモを読みます。しばらく難しそうな顔をしてそれを読み、ため息。「やつば、そう簡単に捜査は進まねえ、か」

キヨウ…「……ん？」「いや、進んだら？」お前何見落としてるんだ、という顔になる。

RL / アルフレッド…「そうか？ 結局、原因や因果関係は分かんねえと思うんだが……なんだ、お前には何か見えたのかよ」
 キヨウ…「ああ、そうか。普通の人間の視点で見たら、普通すぎるのか、これは。」

フィオリナ…「どういうこと？」

キヨウ…「こいつらの導入サイバーウェア一覧をしてみる。全員に共通してるのが2つだけある。一つはI A N U S ……は、まあいい。脳化する上では必須だしな。問題はこっちな」
 スベシヤライズを指さす。「それ以外には、これだけだ。洗ってみる必要があるんじゃないか？」

ハッヂ…警察関係の情報収集の達成値を上げるイヌの特技。

剣…ボビュラーな軍用全身義体。最近では警護用としても人気が出ている。

ゲスト…技能や神業を持つ、シナリオ上重要なNPCのこと。

スベシヤライズ…サブリメント「マターリンク」で追加された装備。任意の技能の達成値を常上昇させる強力なものだ。

ニューラルウェア…サイバーウェアの中で、神経系に装備するもの。

暴走警官、レイ…機動捜査課の暴れ馬とも言われる問題女警官。(力ゼ●、カタナ、イヌ◎) プリンとビールが好物。キヨウとは幼馴染。

RL／アルフレッド…「……は。まさか。お前だって少し調べたなら分かるだろ。スペシャライズなんぞ、今時誰だって入れている。勿論、俺だってだ」スペシャライズは今や、最もポピュラーなサイバーウェアの一つであり、元々その導入率は極めて高いため、事件に直結する原因と判断するのは難しいです。

キョウ…「そうなんだよなあ……」くたり、と身を投げ出して「仮にこれがカギだとしても、これだけじゃ次をどうするってわけにもいかない。まあ、もう少し詰めてみるさ。一般流通品じゃ、機捜は洗いにくいだろうしな」……つと、RL。ここでアルフレッドに《真実》（*）を使用した。

「ところで」

キョウは、そのまま雑談でも続けるかのように、向かいの相棒に問いかけた。

「アルフレッド。お前、なに悩んでんだ」

アルフレッドは一瞬ぼかんとした顔をした後、頭をボリボリかいてバツが悪そうな顔をする。

「ハハ……参ったな、そんなに顔に出たか。感情制御のオプションも積んどくべきだったかな」

RL…いきなり来ましたね……！アルフレッドは観念した、という風に両手を上げて「お前に隠し事なんぞ、無駄だったな。正直に言おう、俺は、怖いんだよ。この事件が」と言います。キョウ…「怖い、か。お前らしくない台詞だな」

RL／アルフレッド…「俺はこの事件に当たるまで、義体化す

る事であんなに多くの人間が自分を見失っちゃうなんて、思ってもいなかった」

ミゲル…アルフレッドも全身義体に換装したフルボグでしたからね、思うところも多かったのでしょう。

RL／アルフレッド…「俺はああは成りたくない。俺は人間のままでいたい。……だけど最近、自分が本当に人間なのか、実感が持てなくなる瞬間があるんだよ」

キョウ…「なるほど、な」言葉を咀嚼するように、しばらく沈黙し。「……僕がわかる、とは言えない話だが。さっきお前が言った通り、この街じゃサイバー化してない方が少数派だろう。そう言う意味じゃ、僕の方が人間から遠い」

RL／アルフレッド…「……」

キョウ…いや……定義の話では、コイツの不安は取り除けないか。「……悪い。詭弁だな」少し遠くを見るように、窓へ視線をやつて。「すまん、力になれないか」

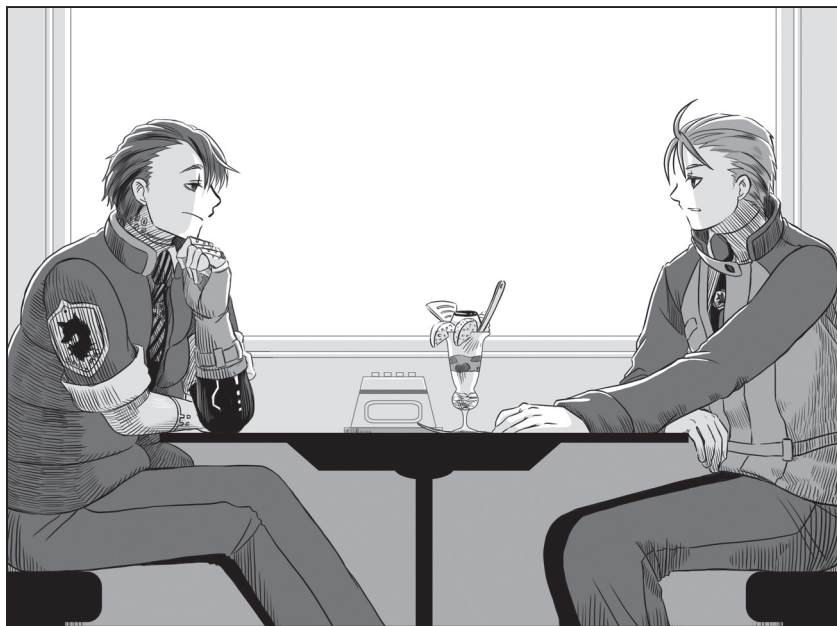
RL／アルフレッド…「そんなことは……ねえよ」

キョウ…「とりあえず、スペシャライズは切つといた方がいいかもしれないな」

RL／アルフレッド…「スペシャライズはI.A.N.U.S.自体を拡張するもんだ。抜かない限り、切ったり付けたりはできねえんだよ」装備の効果が「常時」である為、こういう解釈にしています

キョウ…「そうかい。サイバーウェアつてのも、便利なんだか不便なんだか分かんねえな」

RL／アルフレッド…「だが、まあ……用心にしておくに越し



たことはねえな。キョウ、頼みがある」そう言うと、彼は先ほどの紙ナプキンの裏に何かを書いて、貴方に渡します。「俺の義体の全機能を停止させるバスコードだ。もし、俺がサイバーサイコになつたら、ためらわずに使ってくれ」

キョウ…「最期を頼むなんて、僕も酷い相棒を持ったもんだなおい。……けどまあ、頼まれてやるよ。シルバールেসキューの番号も控えとかないとな」なるべく軽い返しになるように言葉を選びながら答える。

RL…ミゲルとフィオリナは舞台裏判定をどうぞ。

ミゲル…そもそも、サイバーシンドロームというのがどうして起こるのか、知っておく必要がありますね。リサーチは可能ですか。

RL…〈心理〉で判定して下さい。「成立」で構いません。

ミゲル…〈心理〉ですか…〈ブランチ・マーセナリイ〉（*）を使用して、即座に4レベルで取得します。達成値15。

RL…「免疫」という言葉をご存知ですか？

フィオリナ…わたし知ってるわ。「自分」と「自分以外」を認識して、「自分以外」を排除する機能……ようは外部から侵入してくるウイルスなんかをやっつける防御機能の事ですよ。

RL…その通りです。サイバーシンドロームは、サイバーウェアに対する免疫異常による精神病です。本来「自分以外」であ

……………
《真実》…真実を聞き出すフェイトの神業。

《ブランチ・マーセナリイ》…歴戦の兵士である事を表すデータ。即座に技能や特技を取得して使用できるようになる。

るはずのサイバーウェアを、自分の一部と勘違いしてしまう事により、人体と精神が齟齬^{そご}を起こしてしまうのです。

ミゲル…その結果、自分という存在が曖昧^{あいまい}になり、自我崩壊を起こす。……というわけですか。

RL…そういう見解が一般的です。

フィオリナ…じゃあ、私はテラウェアについて調べるわ。ミゲルから情報を貰ったから、調べられるはずよね？

RL…《社会…企業》か《社会…ウェブ》で調べられます。10と17でそれぞれ情報が出る。

フィオリナ…《電脳》《社会…企業》《ストリームマップ》で17よ。

RL…テラウェアはご存じの通り、トロン業界では他の追随^{ついで}を許さない実績を上げている、超巨大企業です。近年、壊滅したG.C.I.（*）を吸収し、そこからサイバーウェアに関する膨大な研究資料を手に入れました。これを元に、サイバーウェア業界にも手を出しつつあります。

ミゲル…我が社としては、脅威的な勢力と言わざるを得ませんね。

RL…彼らは、次世代型I.A.N.U.Sを開発し、サイバーウェア業界のスタンダードシェアを握ることを目的としているようです。また、内部で極秘に「ロスストヒューマン計画」というプロジェクトが動いているらしい。

フィオリナ…お、あからさまに怪しそうなキーワードが出たわね。

RL…その内容は《完全偽装^{アングレガ}》（*）で隠蔽されています。

フィオリナ…ますます怪しいわ。待ってなさい、今に化けの皮を剥がしてやるわ！

取り戻せぬもの

シンプレイヤー…ミゲル

シンカード…レッガー（正）／自業

リサーチシーン4

サンライト・ロード。休憩中のささりまん達で賑わうオフィス街のカフェテラスで、ミゲルは逡巡^{しゅんじゆん}したまま動けずにいた。その視線の先にあった懐かしい顔が、ミゲルの記憶の中の苦いものを呼び覚ましていたのだ。

芽華。壊れた娘。彼女は、数年前にミゲルと別れたその時のままの容姿^{ようさ}をしていた。違っているのは、かつてその瞳に灯っていた光が、今は完全に失われているという事だ。

（へえ、あの娘、昔お兄さんが教えてたんだ。随分大事そうにデータを保管してあるのね）

ミゲルの頭の中に直接響く、フィオリナの声。

「私の電脳^{でんまう}を勝手に漁^{あさ}らないでください……プライバシーの侵害は、あまり褒められたものではありませんよ」

（クスクス。でも貴方、酷い顔してるわね。女の子との感動の再会だつていうのに、あまりに味気なさすぎじゃないかしら）

ミゲルは頭を抱える。だがフィオリナの軽口は、彼にとつ

ては有り難くもあった。少なくとも、気が紛れたお陰で、一步を踏み出す切欠にはなったのだから。

ミゲル…私のシーンですね。芽華の〔アドレス〕に向かおうと思います。

フィオリナ…感動の再会のシーンでしょ、これは出ないわけにはいかないわね。〔電脳〕〔コネ…ミゲル〕を組み合わせて電脳意識体（*）での登場判定をするわね。お兄さんの視覚と聴覚、少し借りるわよ。

ミゲル…お好きにどうぞ。どうせ、抵抗しても無駄でしょうからね。

RL…グリーンエリアにあるオフィスビルが舞台です。貴方の目の前には、かつての姿のままの芽華が居ます。

ミゲル…「……………」無言のまま席に近づき、その向かいに腰掛ける。表情はミラーシールドに隠されて見えない。

RL…芽華は、一瞬何事かという表情で貴方の方を見ます。ボカンとした様子だ。

ミゲル…「コーヒーを」と、通りすがりのウェイトレスに注文して。「いい天気ですね——午後の休憩には、ちょうどいい」視線は合わせぬまま、まるで世間話のような口ぶりだ。

RL…では、少しの間の後、芽華は急にハツとした表情になります。「先輩が、どうして、こんな所に」

キョウ…「……ん？ 何だ、今の間は。」

ミゲル…「クグツがいる理由は、ひとつですよ。それがどんな場所であれ」

RL／芽華…「仕事」……ですか。私も、仕事ですよ。もう、先輩の仕事とは、随分違う物になりましたけれど」

ミゲル…思っていたよりも、普通に見える。まるで、全身義体に入る前の頃のままだのようにも、見えなくはない。だが……。

キョウ…以前のままだなわけ、無いよな、これは。ミゲル…「貴方の仕事とは、例えば——他人の『存在証明』の手助け、などですか」

RL…芽華は少し動揺した後、急に人間らしくない無表情になります。「なんだっていいじゃないですか。壊れて千早を追われた私が、どこで何をしたいようと。関係ないでしょう？」

ミゲル…「——千早を追われた貴方だからこそ、問題なのです。他企業に利するのならば、社としての防衛行動が必要になる」

RL／芽華…「……そうですか。じゃあ、今ここで、私を殺したらどうですか。別に、いいですよ」

ミゲル…「……運ばれて来たコーヒーに口をつける。味がしない。フィオリナ…ああもう！ 見てらんないわ！ 〔電脳〕〔社会…企業〕〔ストリームマップ〕で芽華の事を調べるわ。達成値は20。ミゲルと芽華の間に何があったのか、勝手に（*）調べさせて貰ったわ。（ねえミゲル、貴方あの子をどうしたいの？ 本当にズンバラリンって始末しちゃうつもり？」

ミゲル…「……運ばれて来たコーヒーに口をつける。味がしない。フィオリナ…ああもう！ 見てらんないわ！ 〔電脳〕〔社会…企業〕〔ストリームマップ〕で芽華の事を調べるわ。達成値は20。ミゲルと芽華の間に何があったのか、勝手に（*）調べさせて貰ったわ。（ねえミゲル、貴方あの子をどうしたいの？ 本当にズンバラリンって始末しちゃうつもり？」

G.C.I…軍用サイバーウェアで世界最大の規模を誇っていた企業。テロリストによる本社占拠により壊滅した。

〔完全偽装〕…社にとつての不都合を揉み消すクグツの神業。

電脳意識体…生身ではなく、電脳空間上での意識のみがシーンに登場している状態。通常、アイコンやアバター姿で描写される。

勝手に…言うまでも無いが、プレイヤー間では相談し同意を得た上で、だ。

ミゲル…クッ……！」「——できれば、そうはしたくないのが正直なところですが……協力してほしい、とも思っている。貴方が私のことを、まだ、〃先輩〃と呼んでくれるのなら」

フィオリーナ…あら、ウェットなセリフも言えるんじゃない。これなら芽華ちゃんも落ちるんじゃないかしら。

RL／芽華…「——無理ですよ。私はもう、役立たずですから人間ですら……無いから。だから、もう放っておいて下さい」
フィオリーナ…ええ、嘘！　なんで!?

RL…芽華が目をそらしてそう言った時、急にオフィス内に悲鳴が響き渡ります。一旦シーンを切りましょう。

To Be Continued...